

「命」を護るためには？＝視覚障害者のための冊子 「被災経験者の声」の作成および配布事業

社会福祉法人 桜雲会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-14-102

助成事業の概要

昨今大きな震災、大型の台風被害、豪雨被害等自然災害が増して防災意識も高まる中、映像から情報を得ることが難しい視覚障害者にとって、情報は不足しがちです。健常者なら映像から受け取れる災害の規模や恐怖を実感することもままなりません。そこで視覚障害者を対象とした防災に関する体験型研修会とその記録冊子を企画しましたが、新型コロナ禍において集まったの研修は無理と判断し、企画を変更して被災体験のある視覚障害者からの体験談を冊子にまとめました。

墨字で原稿を頂き、点字に翻訳して健常者も読めるよう点字・墨字合本の形に纏めました。体験型の研修には及ばないかも知れませんが、実際に被災した方の体験は視覚障害者にとって非常に参考になります。また視覚障害者が災害時にどのような状況に置かれ得るのかを一般の方々に広く知っていただくことは真の共生社会を目指す上でも重要なことと考えます。冊子は弊社発行の雑誌等で紹介し、希望者に配布しました。また、全国の盲学校、点字図書館、視覚障害者協会、盲ろう者協会等にも配布しております。

事業の成果

本事業は近年多発化・大規模化する自然災害に対して、命を護るために必要な防災知識を、視覚障害者に提供することを目的に行ったものです。

寄稿いただいた 4 名の方の原稿の中には、避難所内での移動の困難さなど視覚障害者特有の被災

時の体験をつづってくださいましたもの、日ごろから実際に自宅周囲の道を歩いたり危険箇所を自らの体を使って確認しておくことの大切さについてなど被災に向けての備えを記してくださいましたもの等、「視覚障害者にとっての避難のための提言」が述べられています。日頃「護ってもらおう」立場と思われがちな視覚障害者ですが、自らの身を護る為のヒントとなるこの冊子の情報を得る事によって、視覚障害者の自立への自信の一助ともなると自負します。

災害時における視覚障害者特有の課題はテレビや新聞などのメディアでは取り上げられる機会が殆どありません。それらの課題について取り上げ、点字・墨字合本の冊子という形で広く配布したことで、災害時における視覚障害者の命を視覚障害者自身と健常者双方の立場から護る行動に繋がる事業になったと考えます。

冊子を読んだ視覚障害を持つ方、家族に視覚障害者がいる方からは、「視覚障害当事者の実体験なので、とても参考になった」「書かれていたことを参考にして災害に備えていきたい」といった声が多数寄せられました。

成果の広報・公表

冊子完成後、点字毎日（週刊）と当法人発行の点字月刊誌「鍼灸の世界点字版 2 月号」に「無料配布のお知らせ」としてチラシを掲載し、希望する個人の方への配布を行いました。また、各地の盲学校、点字図書館、視覚障害者団体、盲ろう者協会へも冊子を送付し、無料配布を行いました。

当会のHPにも掲載しております。

■ 今後の展開

今回御助成をいただき作成した冊子をより多くの方に届けられるよう、広報活動に、より力を入れていきます。具体的には、多くの人が手に取りやすい点字・墨字合本であること、視覚障害当事者の生の声が収められたものであることをアピールし、当法人発行の点字雑誌での頒布のお知らせの掲載や宣伝用のチラシの作成など、さらに継続的な広報活動を行います。

実際役に立ったという感想もいただいていますので、なるべく多くの方に知っていただければと考えています。今回の事業でやはり体験した方の文章は受け取る側に非常に参考になることが手ごたえとしてありました。当初企画した実際の体験型研修も今後機会があれば実現に向けて準備していきたいと考えております。